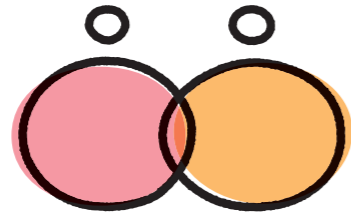


人と人がつながるカタチを描きました。
一人ひとりの支えあう気持ちが重なりあって、
もっと大きなチカラが生まれるといいな
という意味をこめて



今できること
プロジェクト

お申し込み・お問い合わせ



●営業局営業部

〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28
TEL 022-211-1318 FAX 022-227-0923

●東京支社営業部

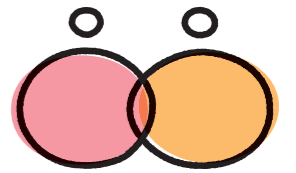
〒105-0004 東京都港区新橋5-13-1新橋菊栄ビル7F
TEL 03-6435-8401 FAX 03-6435-8406

●大阪支社営業部

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-23
TEL 06-6227-1051 FAX 06-6227-1060

2023年度

賛同企業
募集
企画書



今できること
プロジェクト

2023-2024

再生と伝承

命を守る教訓をつなぎ
地域再生の確かな脈動を。

 河北新報社
2023年8月

1

福島相双地域の今を知り
未来を想う



故郷に確かな未来を描ける真の再生を目指して。

福島県沿岸中部以北の“浜通り地方”12市町村を指す「相双地域」。東日本大震災では地震・津波・原発事故の複合災害に見舞われ、同じ被災県でハード面の復旧が進んだ宮城とは異なる様相を見せています。

このツアーでは、福島の“今”と向き合い、未来を展望する契機を創出します。除染で生じる土壌や廃棄物の中間貯蔵について学ぶ大熊町「中間貯蔵工事情報センター」では、廃炉作業が行われる東京電力福島第一原子力発電所を1.3キロ地点から遠望する見学コースを巡り、原発事故による全町避難を余儀なくされた富岡町では、今も影響が続く被災地・被災者の現実を「語り部」とともに巡ります。

富岡町の新たな魅力創出のため、避難先から集った有志10人が2016年からブドウ栽培に挑戦する「とみおかワインドメース」では、海を感じる富岡ならではのワイン造りに賭ける人たちの思いに触れます。

企画展開 スケジュール (予定)	2023年10月上旬	参加募集スタート
	2023年11月上旬	視察ツアー実施
	2023年12月下旬	視察ツアー採録紙面掲載

賛同企業様へ 賛同企業様からの参加も歓迎

「福島相双地域の今を知り未来を想うツアー」の趣旨に賛同し、公募で選ばれた河北新報読者とご同行いただける賛同企業の参加者を募集いたします。

大熊町 中間貯蔵工事情報センター

除染により発生した土壌などを最終処分するまでの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設です。

https://www.jesconet.co.jp/interim_infocenter/

とみおかワインドメース

避難指示が解除される前の2016年より町民有志10名でワイン用ブドウ栽培を開始。少しずつブドウ畑を拡げ、現在はJR富岡駅前を中心に3.8haの圃場に8品種10,000本のブドウを栽培。2024年夏に富岡駅前にワイナリーが完成予定、2025年春からの一般販売を目指しています。

<https://tomioka-wine.com/>

そして、これから、ともに。

地域の未来のために
河北新報社が考える
企業・団体、読者参加型のプログラム
復興の歩みを振り返り
地域の今を見つめなおすプロジェクト

「今できることプロジェクト」は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の懸命な復旧・復興の取り組みの中で「今、私たちにできることはなんだろう?」という問いかけから2012年に始動しました。これまで、多くの企業・団体の皆さま、読者の皆さまから共感をいただいて、幅広い活動を展開してきました。

発災から13年目の本年度は、被災地に寄り添って伴走するプロジェクトの原点はそのままに、被災地の復興への営みを学び直し、次世代に震災の記憶と教訓を伝える活動を主眼に展開します。賛同企業・団体と読者に参加を呼び掛けるバスツアーは、福島第一原発事故の被災地を訪ねる「福島相双地域視察ツアー」(11月上旬予定)、震災遺構の仙台市荒浜小と名取市閑上地区を巡る「仙台沿岸部視察ツアー」(2024年2月予定)の2コース用意しました。中学生が被災地取材して記事にまとめる「震災伝承新聞」も発行します。

転勤や就職、進学などで震災後に宮城県内で生活を始めた皆さま、震災と復興を改めて学びたいと願う皆さま、さらに震災の伝承活動を支援したいと考える皆さまに向けた、被災地の新聞社だからできるプログラムです。ぜひ趣旨にご賛同いただき、活動にもご参加いただけますと幸いです。変わらぬご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

これまでの詳しい活動の記録は
こちらからご覧いただけます。

<https://www.kahoku.co.jp/imadeki/>



2

中学生に託す伝承のバトン



中学生が被災地の今をレポート「震災伝承新聞」

東日本大震災の発生から年月が経過し、当時の記憶が薄れつつあります。震災直前に生まれた中学生の世代では、全く記憶が無いというケースも少なくありません。来たるべき大災害から一人でも多くの命を守るためには、記憶の風化を防ぎ、若い世代へ教訓を継承していくことが必要不可欠です。教訓の若き担い手である中学生たちに、宮城県内各地の被災地を視察してもらい、十代の目線から震災の事実と向き合う取り組みを2020年から実施。いずれも大いに反響を集めました。

事前にオリエンテーションを行い、予備知識を備えて被災地を訪問。現地の語り部や追悼施設、震災遺構、復興めざましい地域などで学びを深めながら、肌で感じて実感を得る視察を実施します。その後、ワークショップでそれぞれの考えをまとめ、中学生自身が伝えたい東日本大震災についての記事を作成してもらいます。それをブランケット判4か面にまとめた特集紙面「中学生震災伝承新聞」を、宮城県内外の中学生や各施設へ合計8万部を配布します。

参加予定の中学校

- 塩竈市立第二中学校
- 仙台白百合学園中学校
- 仙台市立南光台中学校

視察予定の被災地

- 多賀城市
- 石巻市
- 名取市

企画展開
スケジュール
(予定)

- 2023年9月～10月 被災地視察
- 2023年11月下旬 視察レポート特集紙面掲載
- 2024年2月中旬 震災伝承新聞発行
- 2024年3月下旬 校内発表会レポート特集紙面掲載



今やara-hama.sendai311-memorial.jp | 2024 展開案

3

仙台沿岸部の今を知り
未来と出会う



賛同企業様も
参加しやすい
平日午後出発の
半日コースです。

復興から新たな歩み続ける荒浜・閑上の海岸線をたどる。

東日本大震災の津波被害は房総から下北までの太平洋沿岸すべてに及びました。仙台市中心部ではその爪跡を目にすることは現在ほとんどありませんが、東部沿岸では、地域再生に向けた新たな取り組みを見ることができます。

賛同社・一般読者を対象とするこの見学会では、校舎2階まで津波が到達した仙台市若林区「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」を見学。多重防御の観点から嵩上げされ、2019年に開通した県道塩釜亘理線を名取市閑上(ゆりあげ)まで移動、被災前後の閑上について知ります。

閑上と名取川河口を挟んだ仙台市若林区藤塚で仙台市が公募した集団移転跡地利用事業に採択され、2022年4月にオープンした食・農・温泉の複合商業施設「アクアイグニス仙台」施設見学と、賛同企業様には、施設内レストランにて実施の懇親会にご参加いただけます。

企画展開
スケジュール
(予定)

- 2023年12月上旬 賛同企業様へのご案内
- 2024年2月中旬 視察ツアー実施
- 2024年3月中旬 視察ツアー採録紙面掲載

賛同企業様へ 賛同企業様からの参加も歓迎

「仙台沿岸部の今を知り未来と出会うツアー」の趣旨に賛同し、公募で選ばれた河北新報読者とご同行いただける賛同企業の参加者を募集いたします。

震災遺構 仙台市立荒浜小学校

防災・減災の意識を高めてもらうことを目的に、震災で被災した仙台市立荒浜小学校の校舎を、震災遺構として保存・整備した施設です。

<https://arahama.sendai311-memorial.jp/>

名取市震災復興伝承館

名取市では、壊滅的な被害を受けた沿岸部に多重防御の考えのもと、新たなまちをつくりました。あの日の記憶、復興の歩み、災害への備えなどの情報を紹介しています。

<https://www.natori-denshoukan.jp/>

アクアイグニス仙台

宮城県仙台市藤塚地区にオープンした、食・農・温泉の総合リゾート施設。温浴施設とともに、著名なシェフやパティシエが手がける味覚の楽しみが人気を集めています。

<https://aquaignis-sendai.jp/>

今やara-hama.sendai311-memorial.jp | 2024 展開案

そして、これから、ともに。

昨年度の
中学生震災伝承新聞は
こちらから
ご覧いただけます



紙面展開

このプロジェクトに協力して下さる賛同企業様のために、ツアーの一般参加者を募る募集告知紙面や活動の内容を伝えるレポート紙面のほか、さまざまな紙面展開をご用意しています。賛同企業様の社名やロゴの紙面掲載をはじめ、ディスプレイ広告や記事体広告など、ご要望に合わせてご案内いたします。

プロジェクト告知(社名ロゴ連合)

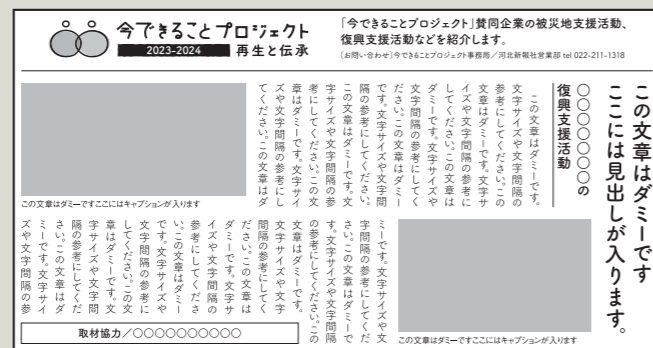
- 2023年10月～2024年3月まで
- 朝刊カラー全5段 (タテ169mm×ヨコ381mm)

賛同企業
ロゴを月1回
掲出



賛同企業 フリースペース

- 2023年10月～2024年3月まで
- ①、②のいずれかを1回掲載
- ①記事体広告…被災地支援活動の取材記事(朝刊モノクロ3段1/2)
- ※毎月下旬、賛同企業被災支援活動の取材記事として、複数社とりまとめて掲載します。ご希望の掲載月をご連絡ください。
- ②ディスプレイ広告…朝刊カラー4段1/4相当 カット付きフリースペース
- ※ご希望の掲載日をお知らせください。



- ①記事体広告…モノクロ3段1/2
- 貴社の被災地支援活動に関する取り組みを取材します。
- ◎写真/2点まで

- ②ディスプレイ広告…カラー4段1/4
- 賛同企業向けカット付フリースペースとしてご利用いただけます。

◎フリースペースサイズ タテ110mm×ヨコ90mm
※完全データにて入稿ください

プロジェクト掲載紙面

- 2023年10月1日から
- 朝刊カラー全15段、全5段 など

スタート紙面

紙面に
賛同企業名
掲出



※昨年度の紙面です。

ホームページとSNS

今できることプロジェクト オフィシャルホームページ

<https://www.kahoku.co.jp/imadeki/>

河北新報読者だけでなく
広く活動内容を発信



今できることプロジェクト Facebook

<https://www.facebook.com/imadeki/>

記事と連動しながら
賛同者と情報共有



ご賛同料金について

お申し込み締切 2023年9月15日(金)

※プロジェクト期間途中からの参加も可能でございますが、賛同料金については同額になります。

基本プランA

300,000円(税別)

- ①各回特集紙面に企業名表記
- ②毎月1回、朝刊カラー全5段で企業ロゴ掲出
- ③被災地支援活動取材(素材提供も可)し、朝刊記事体モノクロ3段1/2を1回掲載
※被災地支援活動以外の原稿を掲載希望の場合、朝刊カラー4段1/4相当を1回掲載
- ④特設webサイト内で企業ロゴ掲出およびリンク設置
- ⑤「福島相双地域の今を知り未来を想う」視察ツアーへの参加権利(2名まで)
- ⑥「仙台沿岸部の今を知り未来と出会う」視察ツアーへの参加権利(3名まで)
- ⑦次世代被災地視察教育支援で中学生が作成した「中学生震災伝承新聞」に企業ロゴ表記

新聞広告追加プラン

オプションプランB(カラー全5段)

1,700,000円(税別)

プランAの①～⑦に加え、

- ⑧朝刊カラー全5段(税別定価1,985,000円)の掲載(1回) 掲載期間/2023年9月～12月
- ※ご希望の掲載日をお知らせください。

オプションプランC(カラー全15段)

3,600,000円(税別)

プランAの①～⑦に加え、

- ⑧朝刊カラー全15段(税別定価4,250,000円)の掲載(1回) 掲載期間/2023年9月～12月
- ※ご希望の掲載日をお知らせください。

東日本大震災発生時からの取り組みをまとめておきたい、新たなフェーズとしてどのような取り組みをしたら良いのか、企業研修として被災地へ訪問を考えたい、など東日本大震災支援関連でのお困りごとなどございましたらご遠慮なく当プロジェクト事務局にお問い合わせください。